

公益社団法人信和会 2024年度事業活動・経営報告(抜粋)

2025年5月20日 法人常務理事会

2025年5月22日 法人決算監査

2025年5月27日 法人理事会

【1】事業活動報告

(1) 事業活動の概況

2024年度は、全体スローガンと質の目標・事業の目標・組織強化と理念的活動の目標の3つの柱を決定しました。公益事業として認定されている京都民医連あすかい病院や介護医療院茶山のさとはもとより、公益社団法人としてのガバナンスを遵守し、無料低額診療事業や社会貢献活動など公益的活動をより重視して取り組みます。

スローガン「私たちができること ―患者・利用者の暮らし丸ごと向き合うこと。地域に出て、SDH に耳を傾け、平和と気候正義を語ること。健康づくりとまちづくりでたくさん手をつなぐこと。」

(ア) 質の目標

①地域に出よう、話を聴こう、対話をしよう。

・診療・サービス提供の場面以外でも、アウトリーチし、耳を傾けるべき対象をそれぞれの事業所や部署で年間計画にして対話目標を達成しよう。

・カフェ・居場所づくりなどははじめとする、地域の様々な協同の取り組みに参画し協力していこう。

・医療懇談会や連携懇話会・地域向けセミナー・オープンカンファレンスなど、ともに学び考えつなげる企画を年間計画にして目標達成しよう。

②気候正義への関心を職員・患者・利用者・地域へ広げ、温室効果ガス排出削減につながる行動目標をもとう。

・全事業所は電力消費量の対前年比抑制を目指そう。

③SDH への感度を高め、HPHとしての実践を日常的に推進しよう。

・まずみる・援助する・何とかする事例交流集会を開催する。

(イ) 事業の目標

①ICTとテクノロジーの導入でケアの質と生産性向上を図ろう。

②信和会 70 周年記念事業(2025 年度)に取り組もう。(信和会 70 周年 2025/1/12, あすかい病院 70 周年 2025/7/1)

(ウ) 組織強化・理念的活動の目標

①研修の機会を増やし、資格取得を支援し、みんなでデジタルに強くなろう。

②新しい友の会への飛躍を共同組織新方針を実践し、魅力的な健康づくりの取り組みと担い手を広げよう。

③法人内相互支援・連携の促進のための人材交流を図ろう。

2024 年度診療報酬改定により医療機関の置かれている状況は、事業の継続に必要な医療従事者の確保、働く職員の処遇改善どころか設備投資すら困難な状況が生じています。

介護報酬改定は、物価高騰に見合っておらず、訪問介護の基本報酬は、身体介護、生活援助、通院乗降介助のすべてにわたって軒並み 2～3%引き下げられており、賃金処遇の低さによる職員不足の深刻化、小規模事業所の倒産・休廃業の増加が懸念されます。さらに介護保険は、利用料 2 割負担の対象拡大、ケアプランの有料化、要介護 1、2 のサービスの保険外しは 2027 年度介護報酬改定にむけて導入をすすめるようされています。事業所は人件費だけで運営しているわけではなく、利用者に必要な訪問介護サービスを確実に届けられるよう安定的な事業運営を実現するためには基本報酬の底上げが不可欠です。

2024 年度予算は、報酬改定への対応をすすめながら、事業継続に必要な施設修繕・機器投資等を賄い、職員の処遇改善等を行う必要最低限の利益を確保する予算討議を行いました。

しかし、法人全体での経常利益予算は△111,260 千円となり、利益目標(必要利益)に届かず、厳しい予算到達となりました。この到達に対し、収支構造の改善を早期にやりあげることが課題であり、月次での改善を行うことを前提に、第6回理事会(3月

26 日)において 2024 年度の事業と予算の確認を行いました。

私たちの事業と経営は、民医連綱領に掲げた無差別・平等の医療・介護の実現、利益を目的とせず、非営利・協同を理念としています。

軍事増大・大国化と一体にすすめられようとしている社会保障費削減に対し、いのち優先の社会を実現し、地域のみなさんの生活、いのちを守り誰もが安心して暮らせる地域包括ケアを推進していきます。

こうした信和会事業を進めるためにも、施設改修や機器備品等更新、職員の適正な処遇改善のために、必要な利益を確保し経営改善に取り組んでいきます。

【2】経営の概要

(1) 2024 年度経営活動の結果

□経常利益	△192,338 千円
予算比較(予算△111,260 千円)	△81,078 千円
前期比較(前期実績△129,768 千円)	△62,570 千円
□純利益	△188,630 千円
予算比較(予算△111,260 千円)	△77,370 千円
前期比較(前期実績△119,648 千円)	△68,983 千円

2024 年度の経常利益は△192,338 千円で、予算に 81,078 千円乖離するという厳しい到達に終わりました。経常利益率はマイナス 3.5%で、償却前経常利益は 43,219 千円です。事業費用は予算内に抑えられたものの、それを大きく上回る収益の不足により、大きな赤字という結果になりました。

(2) 2024 年度経営結果特徴

事業収益の合計は 5,508,138 千円(予算差△251,834 千円、予算比 95.6%)で、すべての月で予算に届きませんでした。

医業収益の合計は 4,370,279 千円(予算差△220,585 千円、予算比 95.2%)で、入院・通院・透析・在宅・健診の各収益が予算未達となりました。

介護収益は 1,137,859 千円(予算差△31,249 千円、予算比 97.3%)で、施設・訪問・通所の各収益が予算未達となりました。

事業費用の合計は 5,749,351 千円(予算差△119,323 千円、予算比 98.0%)となりました。人件費; 予算比 97.9%、材料費; 98.2%、委託費; 95.8%、経費; 99.1%に抑えられていますが、多くの事業所でリースによる LED 設備及び空調設備の更新が行われたことにより、リース資産減価償却費が増加しました。控除対象外消費税は 125,674 千円で、予算比 123.4%、前年度実績比 101.0%でした。

医科事業所全体・介護事業所全体、共に経常利益予算に大きく乖離、前年実績からも後退しています。

あすかい病院・川端診療所・介護医療院茶山のさと・高原デイサービスでは、経常利益予算の未達額が大きく影響し、前年度比からも悪化しました。

あすかい病院は、事業収益予算から大きく乖離し、事業費用は予算内になったものの大きな赤字となりました。

介護医療院茶山のさとは、退所・入院が多く施設収益の大幅な未達となりました。通所リハは職員体制を安定させ、新規確保が進み収益予算達成しました。施設入所利用者の引き続きの確保が課題です。

川端診療所は、外来件数は維持したものの収益予算未達、また外来透析収益が大幅乖離しました。東山診療所は、事業収益予算に未達でしたが、事業費用を管理し経常利益予算を確保しましたが、前年度比では未達となりました。大宅診療所は、事業収益予算達成、事業費用を予算内管理し、経常利益予算を超過しましたが前年比では未達となりました。洛北診療所は、外来患者増等により経常利益予算を達成し前年度比でも増となりました。

訪問看護サービスでは 2 ステーション、訪問介護サービス 1 ステーション、居宅介護支援事業所 1 か所で経常利益予算を達成しました。その他介護事業所は体制課題や加算取得がすすまない状況が続き予算未達成となりました。

以上